

平成30年度 病院医学教育研究助成成果報告書

報告年月日	平成31年 3月 25日
研究・研修課題名	第34回超音波検査士（血管）認定試験
研究・研修組織名（所属）	検査部
研究・研修責任者名（所属）	矢田 恵梨香（検査部）
共同研究・研修実施者名（所属）	

区分	<input type="checkbox"/> 学会発表、 <input type="checkbox"/> 論文掲載、 <input type="checkbox"/> 資格取得、 <input type="checkbox"/> 認定更新、 <input type="checkbox"/> 試験合格 <input type="checkbox"/> 単位取得、 <input checked="" type="checkbox"/> その他の成果()
該当者名(所属)	矢田 恵梨香（検査部）
学会名(会期・場所、認定名等)	
演題名・認証交付先等	
取得日・認定期間等	

目的及び方法、成果の内容

① 目的

血管エコー検査の知識習得および技術向上のために血管超音波検査士の資格を取得することを目的とする。

今回上記の受験資格の条件を満たしたため受験した。

認定試験を受験し知識を得ることで、当院の体表超音波検査の精度向上や、個人のレベルアップにつながり患者のよりよい医療へ貢献するができると考える。

② 方法

2018年11月25日(日)に大阪国際会議場にて開催される、第34回超音波検査士認定試験を受験した。認定試験は下記の日程で行われた。認定試験は臨床領域（血管）に関する知識について筆記試験が行われた。試験は筆記試験・書類審査（超音波検査実績）試験全てに合格すれば資格取得となる。前年度、同認定試験（体表領域）が合格であったため、医用超音波の基礎試験については免除であった。

認定試験：平成29年11月26日（日） 京都市勧業館みやこめっせ

9:00 ～ 受験者入室

9:40-10:00 注意事項の説明および試験問題・解答用紙配付

10:00-11:10 「臨床領域」筆記試験（70分）

③ 成果

- 書類審査（超音波検査実績；抄録20例）、「臨床領域（臨床）」筆記問題35問で70分の試験だった。筆記試験は下記について問題が出された。

「臨床領域（血管）」

- ・頸動脈：頸部血管径の解剖、検査の実際、描出方法、観察・評価方法、血流速度の測定と評価法、代表的疾患と特徴的エコー所見、治療法と評価法

- ・大動脈：大動脈の解剖、検査の実際、観察・評価方法、代表的疾患と特徴的エコー所見、治療法と評価法

- ・腎動脈：解剖、検査の実際、描出方法、観察・評価方法、代表的疾患と特徴的エコー所見、治療法と評価法

- ・下肢動脈：下肢動脈の解剖、検査の実際、描出方法、観察・評価方法、代表的疾患と特徴的エコー所見、治療法と評価法

- ・下肢静脈：下肢静脈の解剖、検査の実際、描出方法、観察・評価方法、検査手順、代表的疾患と特徴的エコー所見、治療法と評価法
- ・その他：穿刺部合併症評価、モニターとしての超音波検査

2. まとめ

今回の試験結果は不合格であった。書類審査（超音波検査実績）試験においては合格点に達していたが、「臨床領域」筆記試験において合格点まで数点足りなかった。

筆記試験は学会の委員会で定められた内容に従い、頸動脈・大動脈・腎動脈・下肢動脈・下肢静脈・その他の分野が出題された。それぞれの疾患で重要なカテゴリー分類を問う問題や、画像を用いた問題、日常の業務で必要とされる知識を問う問題が多く出題されていた。今回の試験においては、特に上記にあげたカテゴリー分類など暗記が必要な問題の割合が多く、混乱してしまった。また、ホームページに載っている標準的評価法からの出題がほとんどであったと感じた。市販の教材を用いて勉強したため、出題内容と若干の相違があったと思われる。

今回、血管エコー検査に対する知識向上と検査技術のレベルアップを目標に認定試験を受験した。結果は残念ながら不合格であったが、試験に向かって勉強したことによりたくさんの知識を得ることができた。得た知識を今後の業務に役立てていきたい。また、今回受検することによって試験の詳細な出題形式が分かったので、自己研鑽を重ねて次回の試験合格を目指したいと思う。